

ぼむ・ぼむ通信

グループ ぼむ・ぼむ

No.17
[春号]

さいたまコープ

「ユニセフ募金の取り組み」



さいたまコープオリジナルの
ユニセファミリーBOX

Partnership

生協のユニセフ活動・15

さいたまコープでは、例年ユニセフ一般募金に力を入れています。しかし昨年は「アフガニスタンに何かしたい」という組合員の声に応え、11月から12月にかけて“アフガン緊急募金”にも取り組みました。また、日本ユニセフ協会が作成したチラシや埼玉県支部の緊急アピール文を配布し、アフガニスタン緊急学習会も行いました。埼玉県支部との共催で2回開催し、短期間の呼びかけにもかかわらず、約160人の人が参加してくださいました。

学習会では、パキスタンやアフガニスタンで9年間にわたり学校やクリニックを開設し、難民支援をしている県内のNGO「燈台」の方を招いてお話を伺いました。アフガニスタンの歴史をビデオで学習した後、現地から帰ってこられたばかりのスタッフから、「アメリカ軍の空爆に対し、アフガニスタンでは日本で報じられているほどアメリカに対して敵対意識を持っていないが、薬も食料も不足している」といった最新情報が伝えられました。

毎年の活動として、さいたまコープではファミリーBOX（ユニセフ募金箱）を作成して組合員に配布し、年に一度11月に募金の集中回収を行っています。今回はアフガニスタンへの支援を意識して、例年より2週間早めて10月中旬から呼びかけを行いました。各班に募金回収袋を配布、共同購入や個人宅配のOCR注文書での募金受付、

店舗では店内放送で募金を呼びかけ、募金箱を設置、広報誌などでユニセフの取り組みを紹介…等々、この時期はユニセフ募金の話題があちこちにある状況を作りました。その結果、募金袋での回収は約360万円、OCR注文書による募金が約430万円、店舗での募金が約130万円と、たくさんの募金の協力をいただくことができました。

1985年からユニセフ募金に取り組んできたさいたまコープは、1995年に10年間の実績を評価され、日本ユニセフ協会からユニセフ募金埼玉事務局の委嘱を受けました。そして2000年5月には県内のユニセフの取り組みをさらに発展させることを目的に、県内の団体や有識者の方々と日本ユニセフ協会埼玉県支部を設立しました。県支部になり、学校やさまざまな団体とのつながりができ、ユニセフ活動の輪が大きく広がりました。

さいたまコープは、他の構成団体と同じようにユニセフをサポートする一団体となりましたが、これからも事務所を提供するなど、引き続き積極的に県支部を支援していく、県内のユニセフ活動の発展のために貢献していきたいと思っています。

<尾澤>

この記事に関するお問い合わせは…

さいたまコープ 組織部 担当 / 永野 諭さん

TEL 048-656-5171 / FAX 048-647-0202

特 集

UNICEF
STUDY
TOUR

昨年10月に行われたユニセフ
スタディツアー参加者のレポートをお届けします。



民族紛争終結後のユニセフ活動支援

[サラエボとコソボ、ご存じの通りどちらも民族紛争があった場所です。紛争終結後のユニセフの支援活動の実体とその意義について知り、ユニセフの取り組みへの理解を深めることができます。]

考える力を身につける教育プログラム作り

全国大学生協連 学生委員 村松義明さん

両国とも復興がかなり進んでいましたが、それでも銃弾の跡がレンガに刻み込まれ、道路には砲弾の跡が生々しく残っていました。経済的には諸外国による支援によってかなり安定していましたが、教育や保健、福祉での遅れが目立ちました。ユニセフは、教育・保健・福祉に関して、その中でも弱い存在である女性と子どもに対する支援を続けています。

ユニセフが支援するコソボの小学校を視察したとき、子どもたちが主体的に学びを作れる環境が用意されているのにびっくりしました。あるクラスでは本を読んでディスカッションをしたり、物語の絵を描いたりしていました。何人かで班を作り、授業で行う課題を決めて1年間その班で計画を立て、調査し、発表をしています。家族や先生もその班の一員となり、一緒に学びながら課題を進めます。最終的に班ごとに新聞を作り、それを基に学校全体の新聞を作っています。

子どもたちは、この班活動がすごく気に入っています。ほかにも生物の授業や想像力をかき立てる授業など、どれも子どもたちが興味あることを学べるようになっています。だから、私たちが教室に入るとみんな先を争って自分たちのやっていることを説明しようと押しかけてきました。本当にイキイキしています。

ユニセフは、将来子どもたちが自分たち自身で国作りをしていくように、考える力を身につける、想像力をかき立てる教育プログラムを先生とともに作っています。また、先生がそのような授業をできるようトレーニングも行っています。ユニセフは、将来のその国を見据えた支援を今も続けています。





赤ちゃん・子どもにやさしい病院

めいきん生協 山本節子さん

現在サラエボの町は、かなり落ち着きを取り戻している印象でした。しかしそく見ると、新しいビルが建っている横で、今も銃弾の跡が残るアパートや、レンガの壁が崩れ落ちたままの教会などが目につきました。私たちは、母乳育児をすすめる「赤ちゃんにやさしい病院」や「子どもにやさしい病院」を視察しました。白い壁にキャラクターを貼ったり、おもちゃを置くなど、子どもたちの精神的なケアにも注意が払われている様子でした。しかし、戦時中に国外に逃れてそのまま帰国しない医師も多く、人手不足といった感じでした。

また、特別な保護を必要とする子どもの教室や、子どもたちが主体的に学習プログラムを決めて勉強している学校なども視察しました。郊外の難民キャンプ内に建てられた「ロマの子どもたちの学校」も見てきました。ロマとは昔ジプシーとも呼ばれていた少数民族のこと、コソボで遊牧をしながら生計を立てていたのですが、戦争で追わされてサラエボに来たということでした。その学校では、子どもたちだけでなく、40歳くらいの人たちも一緒に学んでいました。



学校再開の日

～子ども、先生、保護者が手と手をとりあって～
エレナジーカ小学校 プリシュティナさん

コソボの私たちアルバニア系住民にとって、過去10年は抑圧された大変な時期でした。私たちは、セルビアの子どもたちとは別に、アルバニアの子どもたちだけを集めて授業をもっていました。約900人の子どもが通っていましたが、私たちが使えるスペースは、同じ校舎でも地下の薄暗い教室で、備品も不十分でした。体育館は99年まで使わせてもらえたかったので、体育の授業はいつも屋外でした。真冬はストーブのない教室で、子どもたちは寒さに凍えながら勉強していました。使用できる教室も限られていたので、学校は3部、ときには4部制で、朝から夕方まで交替で学習していました。

困難な時期をともに乗り越えたことは、子どもたちだけでなく、私たち教員にとって良い経験となりました。毎朝8時に職員会議をしましたが、私たちはたくさんの問題を抱え、大きなストレスを感じていました。水も食べ物も十分にない暮らしでしたが、私たち教員はそれぞれ持ち寄ったパンやスナックをみんなで分け、朝食をともにしながら、コソボの子どもたちの未来について話し合いました。食べ物を分け合うことで、リラックスして話し合いをすすめることができました。

コソボの紛争が終り、近隣に避難していた人々が戻ってきました。アルバニア系だけでなく、紛争前はセルビア系と一緒に住んでいたトルコ系の人々や他の民族の人々も戻ってきました。学校を再開するにあたって、私たちは、これまで別の教室で学んできたトルコや他の民族の子どもたちを、どのように学校に受け入れるかを話し合ってきました。これからは、アルバニア系の私たちが他の民族を受け入れることを、子どもたちや保護者に伝えていくのが学校としてできることだと考えました。

学校再開の日、「トルコの子どもたちも来てくれるだろうか」という不安を抱えて、学校で待っていました。たくさんのアルバニアの子どもに混じって、トルコや他の民族の子どもたち、親たちが集まってきた。私たちは皆で手をつなぎ、学校を取り囲みました。この日のことは、いつまでも心に残ることでしょう。これからは、子どもたちの意見を聞き、異なる民族の子どもたちが協力しながら、子どもたちの望む学校を作っていきます。

「私たちは、子どもたちに"NO"とは言いません。子どもたちの自主性を大切にしているのです」と校長先生。



ユニセフこんなこと知りたい



日本がユニセフから支援を受けた頃のお話

1946年(昭和21)に創設されたユニセフは、第二次世界大戦後の緊急援助活動において、12か国400万人の子どもたちに手を差し伸べました。援助を受けた中には日本の子どもたちも大勢いました。

ユニセフからの支援は1949年に援助物資の第一便が神戸港に到着したときから始まり、東京オリンピックが開かれた1964年まで続きました。戦後の食糧難の中、届けられた2,800トンの脱脂粉乳は、札幌、仙台、東京、横浜、名古屋、大阪、福岡など全国12都市の公立小学校、保育所、養護施設などへ給食用として使われ、子どもたちの栄養改善に大きな役割を果たしました。

1955年からは全国700町村の母子衛生組織に、ユニセフミルクが4年間贈られました。衣料の原料である原綿はメリヤス下着などに加工された後、生活保護を受けて

いた子どもたちに配布されました。届けられた物資には毛布、医薬品、医療資材もあり、1959年の伊勢湾台風のときには被災母子に毛布4万枚が贈られました。これらユニセフによる15年間の援助額は65億円にも及び、現在の貨幣価値にすると1,300億円に達します。

1948年当時、日本の乳児死亡率は61.5(100人中61.5人が死亡)で、今日のモロッコ、ケニア、ナミビアといった国々とほぼ同率でした。ほんの少し前のこうした日本の現実を知ることで、現在の開発途上国の子どもたちのことやユニセフの活動がより身近に感じられてきます。日本への支援が終わった翌年の1965年、ユニセフはノーベル平和賞を受賞しました。

<浜崎>

戦後の学校給食の始まりは、1946年12月、LARA(アジア救援公認団体の略称)が無償提供した「ララ物資」の一部が回されてスタートしました。



©日本ユニセフ協会



©日本ユニセフ協会

ユニセフカードのはじまり

1947年、ユニセフに届いた小さな1枚の絵。第二次世界大戦直後、ユニセフはチェコ・スロバキア(当時)に援助を行いました。そのお礼に当時7歳のチェコの少女、イトカちゃんがガラスのかけらに描いて贈った絵にたくさん的人が心を動かされ、その絵をデザインにしてグリーティング・カードを作ったことがはじまりです。



ユニセフ・カード第1号
「イトカ・カード」
カード、封筒各10枚
1,700円

お問い合わせ
日本ユニセフ協会 カード事業部
TEL 03-3590-3030
(月~金 9:00~18:00)

1枚のハガキ [ブルー地にユニセフマーク]

東葛市民生協 大草洋子さん

私が40年来の持病の耳病と決別したのは50歳のとき。首から上にメスを入れられましたが無事に済み、退院を待っていたある日、主治医の奥様からお見舞のハガキが届きました。それはさわやかなブルー地に浮き出しがついたものです。このハガキは現在取り扱いがなく白無地だけのようですが、病床で手にしたあの温かい心とユニセフマーク、それは私の耳の奥にじっと40年巣くっていた今回の病因でもあることともつながり…。

戦後、縁故疎開から帰った小学校は半分焼け落ちていましたが、防火用水代わりのプールは私たちの遊び場でした。水から顔を出すとアゴの下に青苔がついてくるような水でしたが、皆夢中になって遊びました。そしてチェコのイトカちゃんがガラスに絵を描いていた頃、私もやはり一面焼土と化した東京の町で、溶けて混じり合ったガラス玉のきれいな宝石箱の中で遊んでいたのです。

学校で出される給食はソーセージの缶詰や粉ミルクでしたから、とても楽しみでした。後年まづかったと言う人がいますが、あの当時そんなことを言った子どもはないはずです。とても苦しかった頭からのDDT噴射さえ逃げ出した級友はいませんでした。いつの時代でも、子どもは純粋で素直で大人を信じています。

この若い世代の方からの1枚のハガキは、病後の私の方向を示してくれました。あれから14年、耳病は再発することなく、私はイトカちゃんや戦争で失った友人とともに生きています。「今 私にできること 1枚のカードから」私の大好きなユニセフの好きな言葉です。



東葛市民生協の組合員さんです。12年前から、生協のイベント時にユニセフコーナーを設置して、ユニセフカードや手作り品の販売をなさっています。ユニセフカードへの熱い思いが多くの組合員さんに届けられています。

<福本>

ユニセフトレー

ゲームでアイスブレーク



バースデーラインアップ

言葉を使わずにコミュニケーションを図ります。身ぶり手ぶりで確認しながら、誕生日の順に1列になります。



他己紹介

ペアになった相手のことをグループの皆さんに紹介します。
うまく紹介できるよう、皆真剣に相手の話を聞いていました。



子どもの権利条約カードゲーム
グループごとに選んだポスターを見ながら、関連のある子どもの権利を選び出します。

展示で学習

ユニセフハウスの展示をボランティアガイドについて見学しました。現地でのユニセフの支援活動について学びました。



ナー研修

関東近郊の生協を対象に、ユニセフトレーナー研修を行いました。ユニセフ支援活動に取り組む生協間の交流と、ユニセフの情報交換を目的に、10生協より約40名の参加がありました。



劇の上演

ベトナムの農村の貧しい家族の暮らしとユニセフの支援活動について、楽しい寸劇にして紹介しました。シナリオは、ちばコープの組合員さんによるオリジナルです。（写真はユニセフ募金 千葉事務局のスタッフの皆さん）

参加者からのメッセージ

神奈川ゆめコープ 小池さん

「ユニセフの会」としてグループ活動をしています。来年度は委員会になる予定です。募金とユニセフへの理解を広める活動を中心に行っています。母親たちをとおして子どもたちにもユニセフを知ってもらい、平和とはどういうものか考えてもらいたいと思っています。これからも無理をせず、息の長い活動をしていきたいです。お年玉募金は、ちばコープを参考に始めました。

コープぐんま 泉部さん

現在のユニセフ活動は、一般募金と緊急募金です。2月には第2回目のアフガニスタン緊急募金をしました。職員主導となりがちなユニセフ活動ですが、地域で関心を持っている人をどう組織していくか、今年は興味のある仲間でのグループ作りを目指します。

コープとうきょう 安元さん

ラオスのスタディツアーに参加したことがきっかけで、「L & A Team」というグループを作り、活動しています。セミナーやワークショップの企画や、ユニセフの活動を広く伝えるためにインターネットも活用しています。児童労働など子どもの問題については、生協の商品をテーマに取り上げるなど、子どもたちが理解しやすいように工夫しています。

東京マイコープ 小河さん

現在のユニセフ活動は、生協活動の中の「社会的課題」です。昨年7月に平和カンパをOCR注文書で行い、ユニセフを含む6団体に贈呈しました。3月には「子どもと大人の平和学習会」をユニセフハウスで開催する予定です。次年度の課題として、組合員に、よりユニセフの活動を広めていくために、平和委員会を立ち上げたいと思っています。

コープかながわ 佐藤さん

生協活動の「国際活動」にグループが10あり、いろいろな活動をしています。委員会組織では、募金活動を行っています。どのように募金が使われているか知りたいとの声があり、ベ

トナム指定募金もしています。個人的には、インドのスタディツアーに1997年に参加したことから、ほぼ毎月「ナマステ」という情報誌をツアー参加者向けに発行しています。

東京西市民生協 佐藤さん

ユニセフ活動に取り組んで2年目、まとめ役として理事も参加し、「ユニセフの会」というグループとして活動しています。2か月に1回会合をもっています。秋の収穫祭のバザー売上金の募金、カレンダーとカードの販売、OCR注文書での募金と、募金額も伸びています。来年度は、夏休みの親子教室としてユニセフハウスの見学を考えています。

浦賀生協 三澤さん

委員会OBで作った「グループわいわい」で活動しています。持ち寄ってもらった古本を整理して月1回売ったり、年2回のユニセフバザーで、やはり持ってきてもらった衣類や雑貨を売ったりしてできた売上金を募金しています。生協自体の活動としては、お年玉募金をやっていきたいと考えています。

いばらきコープ 小川さん

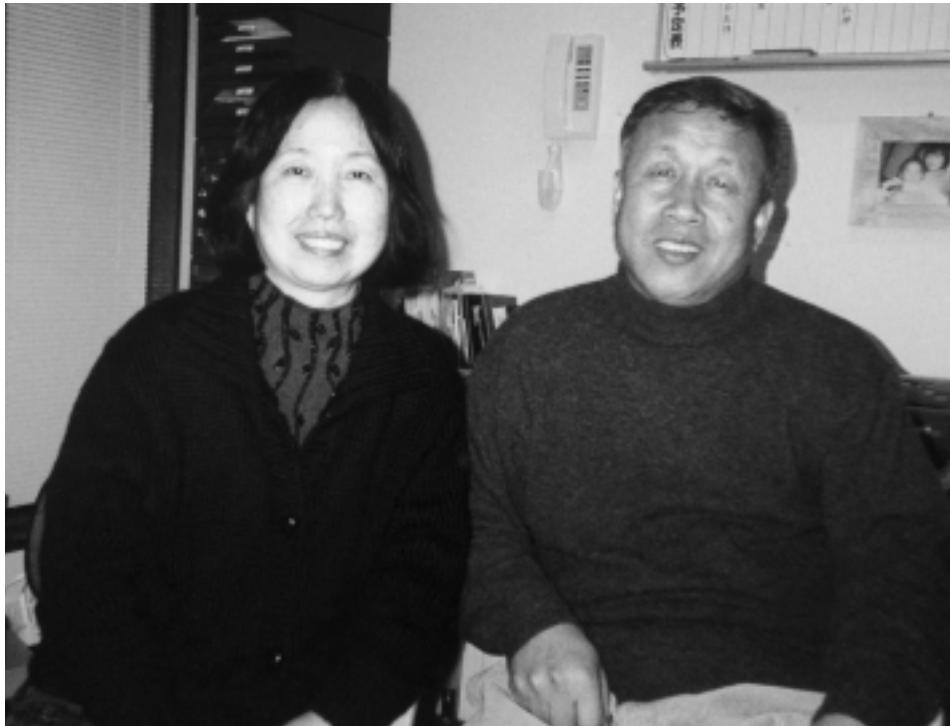
「HOT・HEART」というグループで活動しています。旧理事と現理事がメンバーになっているので、生協のユニセフ活動をサポートする形になっています。指定募金に取り組みはじめてから募金額が増加していることを考えると、より確実な情報を知らせること、目的がはっきりしていることも大切だと感じます。4月下旬に水戸のユニセフ友の会と、ラブウォークを偕楽園で予定しています。

千葉募金事務局 伊東さん

毎月1回の会合で、企画や外貨・テレホンカードの仕分けなどをしています。年1回のユニセフデーはユニセフのことを楽しみながら勉強する会で、寸劇を発表したりします。年1回のカード販売では、カードも自分たちで選び、チラシの紙面作りもします。今年2月9日のユニセフデーでは、アフガニスタンの報告、バンドの演奏、葉祥明さんの講演会と、盛りだくさんの内容を用意しました。



目上の人を大事にし、隣人を助ける



李仁淑さん ジョンヒヨング
全炯九さん

ご夫妻はキリスト教布教のため、9年前に来日されました。韓国というと、仏教伝来の国、または儒教精神あふれる国と連想されますが、実は国民の25%はキリスト教徒で、街にはライトアップされた十字架や教会がたくさんあります。全牧師は、日本人には日本語で、韓国人には韓国語で、それぞれ礼拝をなさいます。来日後に勉強された丁寧な日本語でお話しくださいました。

習慣の違いにとまどい

全さんが来日してまだ間もない頃、電車で大きな荷物を持った人に、荷物を指し、自分のひざをぽんぽんとたいたことがあります。「どうぞ、荷物をここに置いていいですよ」と合図したつもりだったのですが、相手がびっくりして逃げてしまい、とても不思議に思ったそうです。韓国では、知らない同士でも気軽に預け合う習慣があります。目上の人を大事にし、隣人を助けるという、良い風習(美風良俗)です。古くから農作業やキムジャン(キムチ作り)のときに入手を貸し借りする習慣は、相互扶助の代表的なものでした。

李さんが見つけた習慣の違いは、韓国では自分を示すとき、胸に手をあてて「私」と表現しますが、日本では自



分の鼻を指さして「私」と言っていたこと。このことを題材に、地域の学校でスピーチしたこともあるそうです。

元気で楽しいことが大好き

ご夫妻のところには、時々韓国から20人近いお客様が来て、何日も泊まっていくそうです。それだけの人数が集まるときには、実際に賑やかで、あまり賑やかすぎて、「日本では、電車や道では静かにしてください」と注意するとか。「韓国の方はとにかく元気で、楽しいことが大好きです」「みんな思ったことは、何でも言い合ってけんかも多いけど、その後はさっぱりして、お腹に何も残りません」とのこと。お2人の人柄でしょう、親戚や友人だけでなく、知り合いの紹介で訪ねてくる人もいるそうです。

韓國のお話も伺いました。「交通も宿泊も安いので、出かけるときも前から計画しないで気軽に出てかけます。食べ物も安いし、街中活気にあふれていますよ」。ソウルで便利な地下鉄は、かなり遠くまで乗っても日本円で60円くらいだそうです。

子どもは2人が多く、男の子を望む傾向がまだ強いそうです。日本で言う家系図、族譜というものがどの家にもあり、家に対する思いは絶大です。お2人の例でわかるように、女性は結婚しても姓は変わりません。これは、現在日本で議論されている女性の自立を目指した夫婦別姓とは少し違います。男系社会の現れでしょうか。

学歴がまだ幅をきかすこともあり、ソウル大學を頂点とする、受験にかけるエネルギーは大変なものがあるそうです。あまりにも激しい受験熱に、それを避けるため海外に移住する若い家族も多いとか。いずれにしても、大変教育熱心であるようです。

私たちの幸福

韓国語では、「私たち」「We」にあたる「ウリ」という言葉を頻繁に使います。例えば、「ウリナラー私たちの国」「ウリソンセンニム - 私たちの先生」。なぜか自分の夫のこと「ウリナンピョン - 私たちの夫」。

「ウリヘンボク - 私たちの幸福」を思い、お2人は去年新築した教会を、地域の人たちに利用してもらいたいと考えています。韓国語教室を開催したり、働きたくても子どもを預かってもらえるところが見つからず困っている人たちに開放したいと話してくださいました。<山本>

韓國のお好み焼き 雑煎(チヂミ)

材 料

万能ネギ(1把)	ニラ(1把)	<タレ>
タマネギ(中1個)		しょうゆ(大さじ1)
イカ・エビ・アサリなど		酢(大さじ1/2)
好みの魚介類(適量)		あさつき小口切り(少々)
小麦粉(1カップ)		いりゴマ(小さじ1)
卵(1個)	塩(少々)	ゴマ油(適量)
	水(適宜)	

万能ネギとニラは3~4cmに、タマネギは縦半分に切ってから薄切りに、魚介類は食べやすい大きさに、それぞれ切る。
小麦粉、卵、塩、水をよく混ぜて衣を作り、材料を加えて混ぜる。
熱したフライパンにサラダ油を多めにひき、生地を薄く伸ばしてギュッと押しつけながらこんがり焼く。



ユニセフはFIFA(国際サッカー連盟)とともに、世界の子どもたちを応援します

韓国と日本で共同開催される2002 FIFAワールドカップ™が、いよいよ5月31日にソウルで第1試合(フランスvsセネガル)を迎えます。ユニセフは、FIFAと共同開発したプロダクトを発売し、世界の子どもたちのための活動を支援しています。

はじまりは、1999年アルバニア。ユニセフはコソボから避難してきた子どもたちに「子どもにやさしい空間」を設けました。そしてユニセフとFIFA、UEFA(欧洲サッカー連盟)は、子どもが持つ基本的な権利のひとつである『自由に遊ぶ権利』が守られるよう、「平和に向かって遊ぼう」をスローガンにサッカー用具を提供しました。

お問い合わせ
日本ユニセフ協会 カード事業部
TEL 03-3590-3030
(月~金 9:00~18:00)



Tシャツ グローバル・キッズ

ゆったりしたアメリカン・サイズで、赤ちゃんサイズから大人用のLサイズまで揃えています。
綿100%。袖にユニセフのロゴ・マーク付。

サイズ	色	身幅	着丈	値段
赤ちゃん	オレンジ	約31cm	約38cm	¥1,500
ジュニア	グレープ・カーキ	約42cm	約52cm	¥2,000
XS	グレープ・カーキ	約46cm	約57cm	
S	グレープ・カーキ	約48cm	約66cm	
M	グレープ・カーキ	約52cm	約69cm	¥2,800
L	グレープ・カーキ	約56cm	約72cm	

A4判バインダー・セット



¥1,100

2穴のリングバインダーと
らせん綴じノート(160頁)
のセットです。ユニセフと
FIFAのロゴマーク付。

B5判バインダー・セット



¥1,000

2穴のリングバインダーと
らせん綴じノート(180頁)
のセットです。ユニセフと
FIFAのロゴマーク付。

もうご覧になりましたか?

「子どもの権利を買わないで」 - プンとミーチャのものがたり - (VHS15分)

2001年12月17日から20日まで、横浜で「第2回子どもの商業的搾取に反対する世界会議」が開かれ、「子ども買春、子どもポルノ、性的目的のための子ども売買」を根絶しようと各國から約2,000人が参加しました。

ビデオでは、タイの貧しい農村から親の借金や無知のため都会へ売られていき、だまされて売春宿に閉じ込められる日々を

強いられ、エイズや性病に冒されていく少女たちを、プンとミーチャという2人の少女の実話に基づいてアニメで描いています。遠い国で起こっている知らない出来事のように多くの人は捉えがちですが、日本の社会にも買春や児童ポルノが当たり前のように存在している部分もあり、また、日本人が海外で子ども買春やポルノの加害者となっている実態があります。子ども買春や児童ポルノは性的虐待という「重大犯罪」であるという事実を日本社会および世界全体が認識し、根絶できるよう強く訴えたいと思います。

<藤森>

KID'S ROOM

「難民キャンプに行ってみたい」
 「つらい環境でもがんばって
 いる子どもたちを励ましたい」
 センちゃんとプウちゃんは
 ポムにお願いしました...

困ったなあ...

「復興」といっても、キミたちの暮らしと比べたらとても大変なんだよ....。

お願い、連れていって!

みなさんからの支援のおかげでアフガニスタンの復興はすんでいます。

アフガニスタン
緊急支援

「難民キャンプの子どもたち」の巻

あ、難民キャンプが見えてきたよ。

難民の子どもたちはどんな暮らしをしているのか、その目でしっかり見てきてね。

難民キャンプの家族

日本からの支援には感謝しています。

まだまだ食べものも着るものも不足していますが、復興のためにがんばります。

がんばってください!!

これからは、女の子も学校へ行つて勉強できるようになるのよ。

そっ、それは
よかつたね♡

ヤッタ~

よーし、子どもたちは元気に遊ぼう!
たこあげだあ~。

あ、そのへん地雷あるよ。

これまで女子が教育を受けることは法律で禁じられていました。

しかし、子どもたちにとってはまだまだ安全な環境ではありません。

アフガニスタンでは、22年の長期にわたる内戦と3年以上続く干ばつにより、多くの子どもたちが困難な生活を強いられています。子どもの2人に1人が重度の栄養不良といわれるアフガニスタンでは、5歳未満児死亡率は、出生1,000人あたり257人（日本は4人）、4人に1人が5歳になる前に亡くなっています。森林面積は国土全体のわずか3%、南西部はほとんど砂漠地帯です。夏は40℃を超す砂漠地帯も、真冬にはマイナス15℃から時にはマイナス25℃にまで気温が下がります。こうした厳しい環境の中、家を追われた難民、避難民の家族のために、ユニセフは緊急救援活動を続けています。

センちゃんとプウちゃんが 出会った子どもたちには、 どんな権利が 関係あるのでしょうか…

子どもの権利条約

第22条「難民の子ども」

違う宗教を信じているため、自分の国の政府と違う考え方をしているため、また、戦争や災害が起きたために、よその国に逃れた子ども(難民の子ども)は、その国で守られ、援助を受けることができます。

第38条「戦争からの保護」

国は、15歳にならない子どもを兵士として戦場に連れていくことはなりません。また、戦争に巻き込まれた子どもを守るために、できることはすべてしなければなりません。

第39条「犠牲になった子どもを守る」

子どもがほうっておかれたり、むごい仕打ちを受けたり、戦争に巻き込まれたりしたら、国はそういう子どもの心やからだの傷をなおし、社会に戻れるようにしなければなりません。

- ユニセフの支援物資を積んだ

トラック隊(コンボイ) -

2001年9月29日の最初の物資輸送から数えて、2002年1月9日までに、212台のトラックによる78のコンボイが2,090トンの物資をアフガニスタン国内に輸送しました。

20万人分の毛布、子ども服、14万足の子どもの靴

2万人分(2,000張)のテント

家庭用品、暖房用燃料、ヒーター

救急医薬品

栄養不良の子ども用食品(ユニミックス、高たんぱくビスケット、砂糖)

安全な飲料水に変えるための浄化剤、水のポリ容器

スクール・イン・ナ・ボックス(児童80人分の教材の入った箱)

予防接種のワクチン

子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議 (2001.12.17~12.20)に参加して

神奈川ゆめコーブ ユニセフの会
小原晶子さん 小池明美さん 渡邊百合子さん

客のいないときは地下道で寒さをしのぐ少女、エイズにかかって家に帰ることを拒否された少女など、会議では様々な状況の報告がされました。少女たちへのインタビューもありました。どのようにして食べているのか、どこに住んでいるのか、家族や故郷はどこか、どのようにして都会へ出てきたのか、あるいは連れてこられたのかなど、辛く、胸のふさがるような思いで聞きました。

会議のほんの一部を垣間見て、得たものはとても大きかったと思います。内容はもとより、国際会議とはどのようなものか、いろいろな立場で活動している人がどんなに多いか、また皆がそれぞれ、自分たちの活動を広げる場を求めて積極的に活動している様子がわかりました。言葉は通じなくても思いを共有できることは確かです。しかし、言葉がわかれればずっと参加も楽だったろうということも確かです。慣れも大きいと思うので、今後はできるだけこうした機会に大勢で参加し、「私たちは何をなすべき」で、「何ができるか」を、組合員さんとともに考えていきたいと思いました。

子どもと若者による最終アピール

子どもと、若者は、政府や国際機関、NGOの大人们に以下のことを求めます。

- 性や年齢を問わず、すべての人に、子どもの商業的性的搾取の問題について意識啓発を行うこと
- 子どもと若者たちの社会参加を促すために、政府は資金や人材面で支援すること
- ジェンダー(社会的性差)の問題に配慮すること
- 汚職をなくすように真剣に闘うこと
- 政府、NGO、子ども・若者団体が、知識や経験や技術を共有し連携すること
- 子ども買春者の実態をつかむために総合的な調査研究すること
- いかなる場合も子どもは被害者である。性的搾取を行った大人を厳重処罰すること
- 各国の法律を整備し、グローバルな対応ができるようすること
- メディアは、子どもや若者の意見を積極的に取り上げること
- 子どもにとって性的虐待と思われる伝統的習慣は廃止すること
- 各国の文化的な多様性を重視して、それぞれの対策を講じること
- 被害を受けた子どもの社会復帰のために、長期的で包括的、かつ利用しやすいサービスを用意すること
- 生存、発達、保護、参加に関する子どもの権利が侵害されないように、政府は監視を続けること

INFORMATION

アフガン難民緊急募金情報

日本ユニセフ協会が呼びかけたアフガニスタンの難民、避難民のための緊急募金で、これまでに日本の皆様から13億円にのぼるご協力をいただきました。生協からは、2月までに3千6百万円を超す募金が寄せられました。引き続き多くの生協で、緊急募金に取り組んでいただけております。温かいご支援ありがとうございます。

2002年1月に行われたはしかの予防接種キャンペーンでは、79万人の子どもたちが予防接種を受けることができました。また、アフガニスタンの新学期にあたる3月21日に向けて、ユニセフは「バック・トゥ・スクール～

子どもたちを学校へ戻そう！」運動を支援しています。179万人の子ども用の教材と6万人の先生用の教材を届け、教員のトレーニングをし、新学期にあわせて学校再開の準備をしています。

募
金
送
付
先

郵便振替 00110-5-79500
加入者名義：財団法人日本ユニセフ協会
通信欄に「アフガン難民」とご記入ください
送金手数料は免除されます
インターネットからも募金を受け付けています
<http://www.unicef.or.jp>

さいたまコープ 「お年玉募金」に寄せられたメッセージ

私には子どももなく、久しぶりにお年玉と縁ができ、嬉しく思います。1日でも早く平和な世界になればよいと思っています。
ぼくはママからたくさんのお友だちが水も飲めなかつたりする話を聞きました。ぼくの家もママしかいなくなつてたいへんだけど、弟とおつかいのおつりをばきんします。
5歳の娘がある寒い日に、弟とうそこの毛布を持って「さ、アフガニスタンのお友だちのところに毛布を持っていくわよ！1・2・1・2」と遊んでいました。1か月前、「戦争ってなあに」との質問にこたえ、アフガニスタンにも冬が来ることを伝えました。

生協しまね 「アフガン緊急募金」に寄せられたメッセージ

4歳と5歳の子どもが、テロの様子、空爆の様子を見て「地球が痛いって言っているね」と言いました。「みんなで、地球にやさしく暮らせたらいいのにね」と子どもが言います。
「買いたい商品を控えて、その分袋に入れてあげなさいよ」と夫。
毎日ニュースで流れる戦争、難民の人たちの様子、小さな子ども...。同じ地球上に生まれていながら、我が家との子どもたちとのあまりにも大きな差、耐えられない気持ちです。空しい戦争に対する腹立ちは言い表せません。この子たちに対して、私たちにできるせめてもの気持ちは、募金に参加することぐらいです。

めいきん生協 「アフガン緊急募金」に寄せられたメッセージ

生活するのに心配のない国に住む者の責任として、地球上で、水さえも簡単に手に入らない国に住む人たちを、いつまでも支援したい。いつも大人の勝手で子どもが犠牲になるのはとてもつらい。「やられたら、やりかえす」ではきりがない。戦争では何も解決できない。早く子どもたちが安心して過ごせるようになってほしい。
アフガニスタンの人たちに、1日も早く平和な日々が訪れますように。家族でも話し合って、少しずつ心の痛みを分かち合いました。テレビに映し出される、大きく見開かれた悲しげな瞳。またも罪のない子どもたちが一番犠牲を強いられるのですね。

鳥取県生協 「お年玉募金」に寄せられたメッセージ

私のお年玉から募金しました。少しですが、世界の子どもたちの役に立てるようにと思います。私と同じ年の子もいると思います。ともに助け合って生きていきましょう。もっと生きて楽しもうよ。
「ぼくにもできる！」と息子が100円を入れてくれました。同じ星に生まれてなぜこんなに違うのかと不思議がっていました。1人でも多くの子どもたち、そして女性が幸せな普通の生活ができる事を願っています。
たくさんの人の命を助けたいと、子どもが知らない間にされました。子どもたちが、学校にいったりびょうきがよくなありますように。

募 集 編集ボランティア

2002年度、ばむぼむ通信スタッフは、内容をさらに充実していくことを奮闘しています。新しいメンバーによる斬新な意見を積極的に取り入れていきたいと思っています。編集ミーティングは年8回、ユニセフハウスで行っています。時間のあるときに取材や記事執筆を行い、楽しく私たちと一緒に編集作業に参加してみませんか。

お問い合わせ 日本ユニセフ協会 協力事業部 藤田 (TEL 03-5789-2012 / FAX 03-5789-2032)

ユニセフ*コープ ネットワーク ばむ・ぼむ通信

No.17 [春号] 2002年3月1日発行

編 集 グループ ばむ・ぼむ
(生協組合員ボランティア)
スタッフ / 岩橋・尾澤・浜崎・福本・
藤森・松本・山本・藤田
イラスト / 鮎沢
発 行 財団法人日本ユニセフ協会 協力事業部
〒108-8607
東京都港区高輪4・6・12
T E L 03-5789-2012
F A X 03-5789-2032
ホ-ムペ-ジ <http://www.unicef.or.jp>

編集後記

暗い事件の多かった2001年も終わり、新しい年を迎える。今年はどんな年にしたいですかという質問に、やっぱり今年も『一生懸命』を大切に生きていきたいと答えます。そして家族の健康、1年元気に暮らせるなどを初詣でお願いしました。世界のみんなも家族の健康、そしてもちろん平和を望む気持ちは変わらないはずなのに、悲しい現実がまだまだたくさんあります。今自分にできることはちっぽけなことだ

けど、ユニセフをとおして平和を願う気持ちをみんなで育み、広げていきたいですね。(福本)

トレーナー研修での参加者の皆さんは、とても前向き。次は何をしていきたいというエネルギーが伝わってきて、私も及ばずながら、歩みはゆっくりだけど、続けていきたいと改めて感じました。(松本)

風邪が流行。ばむぼむの編集スタッフもダウンしました。(川口)